

特集総目次

(2004 ; Vol.1No.1~2014 ; Vol.11No.4)

Vol. 1 No. 1 (2004年4月)

特集 **入院, それとも帰宅? キミならどうする!?**

企画/堀 進悟

Editorial (15)

堀 進悟

アナフィラキシー

森下由香 (17)

濱田真理, 他 (20)

めまい

田中 拓 (22)

太田祥一 (25)

武田英孝 (27)

胸痛

牧野光恭, 他 (30)

上山裕二 (34)

「入院帰宅の判断」のまとめ (37)

堀 進悟

入院帰宅の判断をまちがえやすい症例 (38)

井 清司

ER診療のシステム学 (43)

瀧野昌也

急がれる Observation Medicine への対応 (47)

奥村 徹

Vol. 1 No. 2 (2004年6月)

特集 **ERで患者・家族とう まく付き合う方法**

企画/林 寛之

Editorial 気持ちのいい関係を築こう (102)

林 寛之

小児患者・親とうまく付き合い 不安を抱かせないための4つの条件 (104)

市川光太郎

高齢者患者・家族とうまく付き合う3つのポイント (109)

浅井精一

frequent flyer (救急常連さん) と付き合うコツ (114)

森野一真

ERで出会うむずかしい患者と家族の付き合い方 (119)

伊藤史生

Vol. 1 No. 3 (2004年8月)

特集 **このときだけは検査が 決め手**

企画/今 明秀

Editorial ERでの検査の基本 17カ条

—検査に頼りすぎると落とし穴に陥る! (181)

今 明秀

突然の激しい頭痛に頭部CT

—クモ膜下出血を見逃すな! (186)

大熊洋揮

胸痛, 腹痛による急性心筋梗塞を見逃すな!

—心電図で確定診断はできない (191)

菅原 斉

非典型例の急性大動脈解離を見逃すな!

—疑ったら心エコー・CTをチェック (198)

紙尾 均

若い女性の腹痛に超音波検査

—子宮外妊娠を見逃すな! (202)

伊藤雄二

Vol. 1 No. 4 (2004年10月)

特集 **ERで生かす総合診療 医のセンス**

企画/井村 洋

Editorial 「さばく」から「つなぐ」へ (270)

井村 洋

かかりつけ医のいる患者の対応

—慢性疾患から終末期患者まで (272)

矢部正浩

精神症状のある患者の対応

—混乱した患者と一緒に混乱しないために (276)

松岡弘修

全身倦怠感を訴える患者の対応

—「きつい」患者にはご用心! (280)

谷口純一

敗血症を疑う患者の病棟診療へつなげる救急外来の対応 (286)

多鹿昌幸

Vol. 1 No. 5 (2004年12月)

特集 **災害！ そのとき ER は？**

企画／奥村 徹

Editorial 阪神・淡路大震災，地下鉄サリン事件から 10年 (354)

奥村 徹

地下鉄サリン事件の経験から (356)

石松伸一

阪神・淡路大震災の体験からみた災害医療における ER の役割 (359)

村山良雄

災害が起こる前にすべきこと

—災害対応計画・被害の軽減化ってなに？ (363)

本間正人

多数傷病者の受け入れに備えて

—ERにおけるトリアージの全基礎知識 (367)

山口孝治

まちがいだらけの災害訓練

—災害訓練の効果的やり方 (374)

今中 聡

災害時広域搬送の切り札

—ヘリコプターはこうして呼べ！ (377)

安部哲夫

災害看護ってなに？

—災害看護と日常看護にはそれほど差はない (383)

太田晴美

[特別寄稿]

5日間，懸命の医療支援

新潟中越地震・震源地川口町緊急救援リポート (385)

今 明秀

体験のアメリカの災害危機管理

—9・11からNDLSまで— (386)

八重樫牧人

Vol. 2 No. 1 (2005年2月)

特集 **Medicolegal ER**

企画／林 寛之

Editorial Medicolegal issueに強くなる (11)

林 寛之

暴力回避プライマリ・マニュアル (12)

伊藤史生

なにがあってもインフォームド・コンセント (16)

森野一真

A Typical Presentation になりやすい患者を見分ける (20)

児玉貴光

Defensive Medicineではなくて，きちんと仕事しよう (24)

清住哲郎・岩本慎一郎・岡田芳明

Vol. 2 No. 2 (2005年4月)

特集 **これでいいのか ER の 感染症管理**

企画／奥村 徹

Editorial すべては患者さんのために

—J. P. サンフォード先生に捧ぐ (107)

奥村 徹

染色の達人になろう (108)

古谷信彦

検体のとり方から感染症管理まで (114)

本郷偉元・青木 真

「空気のような」感染管理をしよう (119)

椎木創一・遠藤和郎

まちがいだらけの抗菌薬使用 (125)

岩田健太郎

日本の感染管理夜明け前

—感染管理看護師の立場から (131)

柴田 清

Vol. 2 No. 3 (2005年6月)

特集 **どう切り抜ける？ ER のトラブル！**

企画／河野寛幸

Editorial 対応力がためられている (195)

河野寛幸

悩むことないんですよ，そんなもん！

—ベンタジン中毒への対応 (197)

富岡譲二

病院全体で対応策を考えておこう

—暴言・暴力患者への対応 (201)

太田 凡

社会全体で支援していくシステムへ

—アルコール依存症患者への対応 (206)

森下由香

拒否の背景に応じて対応しよう

—診療拒否患者への対応 (210)

谷口淳朗

患者さんは病態が分からない

—タクシー代わりへの対応 (214)

大橋教良

“ぞんざい” はいけません

—ホームレス患者への対応 (218)

長嶺貴一

重症度だけではなく患者さんの背景や環境，来院時刻など総合的に判断しよう

—入院を希望する患者への対応 (222)

田代尊久

Vol. 2 No. 4 (2005年8月)

特集 ERでのトリアージの極意

企画/箕輪良行

Editorial トリアージは救急の専権事項である (283)

箕輪良行

救急隊の現場情報を評価するコツ

—指示医として考えるプレホスピタルとの関係 (284)

七戸康夫

最初の印象から重症度を判定する方法

—first impression を感知する感性を磨こう! (287)

上山裕二

許せるオーバートリアージ, 許せないアンダートリアージ (292)

前田重信

「経験」の共有化でトリアージカアップ (296)

小平ジュン

システムを構築し日々検証しよう

—救急現場から見たERのトリアージ (299)

関根和弘

Vol. 2 No. 5 (2005年10月)

特集 ERでの研修医教育

企画/堀 進悟

Editorial 「救急研修」は救急医療の質を高める (361)

堀 進悟

臨床研修期間の目標を設定しよう

—ERで効果的に学習する方法: 基本的技能教育法と救急疾患攻略法 (362)

田中和豊

救急現場における臨床教育の実際

—指導医の経験・病態生理・臨床疫学的アプローチを統合させ、救急現場における臨床教育に生かす (367)

木村琢磨・鈴木 亮・尾藤誠司

ERでの上手な勉強法 10カ条 (372)

船曳知弘・鈴木 昌

併設型であることを研修に生かす

—併設型救命救急センターにおける卒後研修の役割 (377)

鍛冶有登

Vol. 2 No. 6 (2005年12月)

特集 Preventable Deathの原因はERにある

企画/今 明秀

Editorial 診断と手術決定の遅れが致命的となる (447)

今 明秀

脳血管障害のPreventable Death (449)

西山謹吾

頭部外傷のPreventable Death (455)

佐々木 勝

気道管理のPreventable Death

—気道管理の不手際で患者は容易に死亡する (462)

金子高太郎

小規模病院で起こるPreventable Death

—自施設の技量・キャパシティをわきまえて診療しよう (468)

島田耕文

腹部外傷のPreventable Death

—どこの病院にも「スーパードクター今」がいるわけではない! (473)

北川喜己

急性冠症候群のPreventable Death (477)

菊池文孝

Vol. 3 No. 1 (2006年2月)

特集 キミはメディカル・コントロールを知っているか

企画/石原 晋

Editorial (17)

石原 晋

メディカル・コントロールってなんだ (18)

山本五十年

メディカル・コントロールの現在とこれから

—プロトコル・教育・病院実習—病院前救急医療の神髄メ
ディカル・コントロールの実際を知ろう (23)

松田 潔

オンライン・メディカル・コントロール

—指示・指導・助言医師に求められること (28)

畑中哲生

レトロスペクティブ・メディカル・コントロール

—検証と症例検討 (33)

松本 尚

匿名座談会

救急救命士の現状と課題

—現場学のススメ (39)

石原 晋, 他

Vol. 3 No. 2 (2006年4月)

特集 ER とクリティカルケア、その違いとは

企画／河野寛幸

Editorial 救急の達人になるために、二つのシステムの違いを正しく理解しよう (105)

河野寛幸

救命救急から ER へ

—ER との遭遇 (107)

木村眞一

一般外科から救命救急、そして ER へ (112)

井上哲也

地方都市の救急医にみる ER と救命救急 (クリティカルケア) の役割 (117)

金子 唯, 他

“日本型”救急医が見た北米型 Emergency Medicine (121)

佐藤朝之

Vol. 3 No. 3 (2006年6月)

特集 私の求める ER フィジシャン

企画／堀 進悟

Editorial ER フィジシャンの養成こそが、日本の救急医療を向上させる (198)

堀 進悟

Emergency Physician の育成に必要なプログラムは

—救急医の立場から (199)

瀧野昌也

日常の診療手順から見た求められる能力

—Emergency Physician の育成に必要なプログラムは (203)

山崎元靖

看護師は ER Physician に何を求め期待しているのか

—ER で協働するすべての医師に向けて (207)

佐々木小奈江

Emergency Physician の育成に必要なプログラムは

—市民の立場を代表して (216)

辻本好子

座談会 ER 研修を考える

—研修と業務の狭間で (210)

木村琢磨, 他

Vol. 3 No. 4 (2006年8月)

特集 うまいコンサルトとは？

HELP! コンサルトの TIPS

企画／林 寛之

Editorial コンサルト名人になろう (293)

林 寛之

キミはコンサルトの手順をふんでいるか? (296)

太田 凡

コンサルテーションの狭間で (302)

岩田充永

研修医から見たコンサルトしやすい医師とは? コンサルトしにくい医師とは? (307)

又野秀行

Vol. 3 No. 5 (2006年10月)

特集 どうやって医師の交代制勤務を実現するか

企画／箕輪良行

Editorial (386)

箕輪良行

交代制勤務の科学から学ぶもの (387)

井部俊子

わがままな医師向け・シフト勤務表の作り方 (393)

前田重信

交代制勤務の法律 (397)

近藤久禎

救急医の上手な申し送りのノウハウ (402)

佐藤朝之

どうしたら従来型の主治医制でやれるか (408)

小井戸雄一

Vol. 3 No. 6 (2006年12月)

特集 キミは中毒に対応できるか

——中毒, 集団中毒, 化学災害——

企画／奥村 徹

Editorial (476)

奥村 徹

中毒学会の推奨する標準的治療って何?

—標準的治療って何?— (477)

浅利 靖

知られざるドーピングの世界

—検査の前に知っておくべきこと— (481)

植木眞琴

胃洗浄の危険性!?

—胃洗浄二次災害事例報告— (485)
広瀬保夫

胃洗浄って、無意味なの (490)

伊関 憲

中毒治療のとんちんかん

—こんな誤りを例えてみると— (495)
上條吉人

薬毒物分析ってどんな意味があるの?

—臨床薬毒物分析業務— (499)
堀 寧

日本中毒情報センターって何するところ?

—どんだん活用しよう— (506)
黒木由美子

アナフィラキシー集団発生!

—ヒスタミン中毒集団発生事件顛末記— (510)
大谷典生

Vol. 4 No. 1 (2007年3月)

特集

外傷症例帖

——人の振り見てわが振り直せ——

企画/今 明秀

Editorial (49)

今 明秀

優先順位

骨盤か腹か

—開腹すると骨盤骨折出血が増える。
この腹腔内出血は、開腹すべきか否か (50)
今 明秀

胸か腹か

—大動脈破裂の手術は一番とは限らない (53)
今 明秀

頭部外傷と腹腔内出血

—開頭と開腹とどっちが先か? (56)
大庭正敏

手術

Trauma incision はなぜ必要か

—救命開腹手術と待期手術を区別せよ (61)
前田重信, 他

腹部刺創は背中を見ろ

—刺創のトラウマ ルールを知れ (64)
今 明秀

突っ込むと死ぬぞ

—Damage control surgery を実践せよ (66)
今 明秀

骨折の Damage Control (68)

山崎亮一

切断か温存か

—下肢温存で絶命 (71)
今 明秀

挿管

鎮静して挿管 (74)

前田重信, 他

最大危機は挿管失敗, 換気不能

—Cannot ventilate, cannot intubate に輪状甲状靭帯
切開 (78)
今 明秀

輸血

生か死か, 究極のインフォームドコンセント

—救命できても, 損害賠償?? (81)
今 明秀

ショックの見極め (85)

岩田光永

出血性ショックに対する輸血戦略 (87)

岩田光永, 他

迅速な輸血のために (89)

岩田光永

外傷後貧血に鉄剤投与は本当に効くの?

—輸血の代わりに安易に鉄剤と考えない (90)
今 明秀

過小評価

死のトンネル CT (93)

林 寛之

シートベルト痕の意味すること (97)

萩原栄一郎, 他

急性減速性外傷ってなあに (100)

箕輪良行

フリーエアーなし≠問題なし??

—腸管損傷は否定できない (103)
今 明秀

筋性防御なし??

—腹部は soft&flat, その所見あてになる? (105)
今 明秀

せっかく, DPL までやったのに

—DPL のコツと落とし穴 (107)
今 明秀

胸と腹の間

—乳頭の高さの刺創は, 微妙?? (110)
今 明秀

肋骨骨折は胸部 APX 線のみでは分からない (112)

吉岡勇氣

小さな気胸

—DOPE で対応しよう (116)
吉岡勇氣

腹部痛でも心臓から

—心タンポナーゼを見逃さない (119)
土佐亮一

スパイダーマン

—救急隊、救急医も脱帽、過大評価もご注意 (122)
今 明秀

損傷見逃し

不慣れな FAST は信用しちゃだめよ

—腹腔内出血 (124)
昆 祐理, 他

見逃された血胸

—FAST と血胸 (128)
千葉 大, 他

FAST で後腹膜臓器損傷は分からない (131)

光銭大裕, 他

腹部レントゲンで骨盤 OK ? (135)

濱館香葉, 他

仙骨骨折はよく見逃される (137)

山崎亮一

骨盤痛あり, 直腸診は?

—尿道損傷を見逃す? (139)
土佐亮一

Vol. 4 No. 2 (2007年6月)

特集

転送?入院?

——ここが決め手——

企画/堀 進悟/井村 洋/岩田充永

Editorial

堀 進悟

頭痛

外来クリニックの場合 (156)

横林賢一

総合病院 ER の場合 (159)

柴山美紀根

胸痛

外来クリニックの場合 (163)

斎藤裕之

総合病院 ER の場合 (169)

谷川幸洋, 他

失神

総合病院 ER の場合 (175)

上田剛士

一過性神経欠損症状

外来クリニックの場合 (179)

北村 大, 他

高齢者の腹痛

外来クリニックの場合 (183)

草場鉄周

総合病院 ER の場合 (187)

日比野壮功, 他

吐血

総合病院 ER の場合 (191)

横江正道, 他

めまい

外来クリニックの場合 (196)

茂木恒俊

総合病院 ER の場合 (199)

河野慶一

高血圧

総合病院 ER の場合 (202)

太田正文

発熱

外来クリニックの場合 (205)

森田 潤

腰痛

総合病院 ER の場合 (208)

川尻宏昭

精神変容

総合病院 ER の場合 (212)

田中 拓

自殺企図

総合病院 ER の場合 (216)

安田貴昭

アナフィラキシーショック

総合病院 ER の場合 (220)

本村和久

異物誤飲

総合病院 ER の場合 (223)

遠藤伸悟, 他

虐待

総合病院 ER の場合 (228)

松本 務

特集 **マイナー科の疾患**
ERでどこまで診るか

企画／箕輪良行／加藤博之

Editorial

加藤博之 (325)

PART 1 クリティカルな疾患への対応

1. 眼球破裂, 眼内異物 (326)
園田良英
2. 前房出血 (328)
園田良英
3. 視束管骨折 (331)
和田崇文, 他
4. 持続する耳出血 (334)
大石延正
5. 持続する鼻出血 (335)
大石延正
6. 網膜中心動脈閉塞症 (338)
太田正文
7. 急性喉頭蓋炎 (341)
岡野博史
8. 咽喉・気道異物 (344)
岡野博史
9. 深頸部膿瘍 (347)
浅岡峰雄
10. 肺炎球菌による電撃型紫斑病 (349)
浅岡峰雄
11. スティーブンス-ジョンソン症候群 (SJS) (351)
多田譲治
12. 中毒性表皮壊死症 (TEN) (355)
多田譲治
13. フルニエ症候群 (359)
和田崇文, 他
14. 精巣捻転症 (362)
桜井淑男, 他
15. 尿閉 (364)
千葉 大
16. 鼠径ヘルニア嵌頓 (367)
井上哲也
17. 気腫性腎盂腎炎 (370)
谷口洋貴

PART 2 よく見る疾患への対応

1. 角膜異物 (373)
草場鉄周
2. 紫外線による眼障害, 電気性眼炎 (374)
草場鉄周
3. 結膜炎 (含む EKC) (376)
太田正文
4. 麦粒腫, 霰粒腫 (377)
太田正文

5. コンタクトレンズ眼障害 (379)
昆 祐理, 他
6. 角膜びらん (381)
園田良英
7. 眼瞼, 涙小管裂傷 (383)
宮島 衛
8. 吹き抜け損傷 (384)
宮島 衛
9. 顔面骨骨折 (385)
宮島 衛
10. めまい (387)
柳井真知
11. 急性中耳炎 (390)
柳井真知
12. 急性副鼻腔炎 (392)
草場鉄周
13. 鼻アレルギー (394)
大石延正
14. 蕁麻疹 (398)
金子高英
15. 虫さされ (400)
松崎康司
16. 日焼け (401)
中島康爾
17. 円形脱毛症 (403)
池永五月
18. 魚刺傷 (405)
宮城良充
19. 動物咬傷 (407)
宮城良充
20. 乳腺炎 (410)
井上哲也
21. 包茎・亀頭包皮灸 (412)
桜井淑男, 他
22. 唾石症 (414)
藤井信男
23. う歯 (むし歯) (415)
藤井信男
24. 口内アフタ (416)
藤井信男
25. 歯性炎症 (含む歯根膿瘍) (418)
藤井信男

時間外の小児救急

どう乗り切りますか？

企画／市川光太郎／林 寛之

Editorial

市川光太郎

1. 子供のバイタルサインって何が正常なの？ (476)
鈴木善統
2. 小児の蘇生っていざとなるとあわててしまうのですが (479)
六車 崇
3. 小児の意識障害・けいれん重積ではこちらの意識が遠のく (483)
石橋紳作
4. 小児の点滴って本当に難しくありませんか？ (487)
六車 崇
5. 風邪といいつつ抗生剤を処方してしまうのだけど？ (490)
織田慶子, 他
6. 発熱以外の症状がないんだけど、どうしたらいい？ (492)
神菌淳司
7. 3 か月児の熱発って本当に重症なの？ (496)
神菌淳司
8. 初期症状が熱発のみで怖い疾患ってなに？ (499)
石井正浩
9. インフルエンザと感冒の違いって何なの？ (503)
鈴木善統
10. のどに白苔がついてないのに溶連菌感染症ってことあるの？ (505)
市川光太郎
11. 扁桃に白苔がついているんだけど溶連菌なの？ (509)
市川光太郎
12. つばも飲めないくらいのが痛っていつまで？ (513)
林 寛之
13. 副鼻腔炎を疑ったら抗生剤を出していいの？ (517)
保富宗城, 他
14. 中耳炎なら抗生剤を出していいの？ (520)
保富宗城, 他
15. 発熱＋発疹って鬼門なんですけど (523)
片寄雅彦, 他
16. ウイルス性の発疹っていつまでたっても苦手なので (526)
片寄雅彦, 他
17. 喘息と思いきやクループ？ (530)
岩佐充二
18. 発熱患児の採血はいつしたらいいの？ (533)
天本正乃
19. 熱性けいれん予防に効く薬は？ (535)
長村敏生

20. 首が固くなければ髄膜炎は否定していいの？ (538)
前田重信
21. 腰椎穿刺ってとつきににくいのですが？ (541)
巨田尚子
22. 小児の輸液のスピードってわかりにくいのですが？ (545)
鈴木善統, 他
23. 恐い下痢ってどんな時疑うの？ (549)
津村直幹
24. 脱水の経口補液ってどう処方したらいいの？ (553)
鈴木善統, 他
25. 胃腸炎なら乳酸菌製剤って？ (556)
木下博子
26. 小児の尿路感染はいつ疑うの？ (559)
久我修二
27. やっぱりアッペは嫌なもの、でも所見をとるのが難しい (562)
内田正志
28. 小児の腹痛って難しいので困ってしまう (565)
内田正志
29. 喘息の治療は飲み薬ではダメですか？ (568)
服部圭太
30. 朝礼で失神する子供って検査必要なんですか？ (571)
天本正乃
31. 小児の経口抗菌薬ってどうして量が比較的多いの？ (574)
織田慶子, 他
32. 頭をぶつけた子供の対応って難しい？ (575)
神菌淳司
33. 小児の頸椎損傷ってまれじゃないですか？ (580)
村田祐二
34. 小児の腹部外傷ってどんな手順で戦えばいいの？ (583)
伊藤泰雄
35. 小児の見逃しやすい骨折は？ (587)
徳永日呂伸
36. 虐待はどう見つけたらいいの？ (591)
市川光太郎
37. 虐待を見つけた時の通報の仕方はどうしたらいいの？ (598)
市川光太郎
38. 小児の泌尿器科疾患って苦手なんだよなあ (603)
山口孝則
39. 小児って異物をどうして入れたがるんでしょう？ (607)
林 寛之
40. 小児科ってむしろ患者は保護者？ (611)
岩田充永
41. 出血傾向の子供が来院したら (614)
神菌淳司
42. 学校伝染病の対応を覚えてえ (617)
市川光太郎

特集

まちがいのない軽症外傷の評価と処置の進め方 ERと整形外科のコラボレーションによる

企画／太田 凡／永田高志

Editorial

太田 凡

1. 「そんなことも聞いていないのか！」と言われないERでの病歴のとり方 (46)
許 勝栄, 他
2. X線写真の前に身体診察でやっておくべきミニマム (53)
永田高志
3. これだけは絶対に見落とさないで! (59)
川井 真
4. 「もうひとつの損傷」に注意 (65)
本多英喜
5. 正面・側面以外の撮影法って何があるの? (71)
小山泰明
6. 見逃しやすい骨折をあたりに刷り込んでおこう (85)
徳永日呂伸
7. 小児で見逃しやすい重要な骨折 (95)
小淵岳恒
8. 私が納得したい骨折所見の記録法 (99)
志賀 隆
9. RICEってエビデンスがあるんですか? (104)
宮道亮輔
10. Icing, Elevationは具体的にどう指示すればいいの? (108)
市川元啓
11. アルミニウムスプリントを使いこなそう (110)
林田 敬
12. ソフトシーネの使用法 (113)
伊藤史生, 他
13. ギブスシーネ (Padded Splint Cast) を使いこなそう (116)
太田 凡, 他
14. 鎖骨バンドとバストバンドを使いこなそう (120)
不動寺純明, 他
15. 膝関節への穿刺法を教えよう (126)
仲田和正
16. 肩関節脱臼の整復法を教えよう (130)
山下雅知, 他
17. 包帯と三角巾の正しくて綺麗な使い方のコツ (134)
林 峰栄, 他

18. 救急室での松葉杖の使い方と基本的指導法 (138)
雨田立憲
19. 整形外科再診は翌日がいいの? (143)
奥本克己, 他
20. コンパートメント症候群の発見が手遅れとならないために (147)
野々上 智, 他
21. 「救急外来で見逃された」ということをなくす工夫は? (150)
太田正文
22. 「骨折をERで見逃された」ということをなくすには? (153)
伊藤社一, 他

特集

災害医療に役立つ医療人になるために

企画／本間正人／奥村 徹

Editorial 本間正人／奥村 徹 (216)

PART 1 災害医療の基本

1. いまさら人に聞けない基本中の基本 (219)
林 寛之
2. 瓦礫(がれき)の下の医療 (227)
井上潤一

PART 2 日本における災害医療の教育コースのすべて

1. 日本DMAT (Disaster Medical Assistance Team) (232)
本間正人
2. 災害医療従事者研修 (236)
堀内義仁
3. MIMMS (Major Incident Medical Management and Support) (含むhospital MIMMS) (238)
嶋津岳士
4. NDLS (National Disaster Life Support): 特にBDLS, ADLSについて (242)
谷口 巧
5. エマルゴトレインシステム (245)
本村友一
6. NBC (核・生物・化学) 災害・テロ対策研修 (249)
奥村 徹
7. 日本赤十字社における災害医療研修 (253)
中野 実
8. 国立病院機構における災害医療研修 (257)
小林良三
9. 日本集団災害医学会セミナー (262)
二宮宣文
10. JDR (国際救急援助隊) 医療チームの研修 (266)
近藤久禎

11. 緊急被ばく医療基礎講座 (273)
郡山一明
12. 緊急被ばく救護セミナー, 緊急被ばく医療セミナー (277)
立崎英夫
13. MIC (多数傷病者発生事故) に対する災害医療教育プログラム (281)
森村尚登
14. 北九州市医師会災害医療プログラム (286)
郡山一明

PART 3 どうやってDMATを立ち上げるか

1. 東京DMAT (290)
佐々木 勝
2. 神奈川DMAT (295)
阿南英明
3. 埼玉DMAT (301)
福島憲治
4. DMATの地方における活用 (306)
森野一真

PART 4 Mass Gathering Medicineに関わる方法

1. モータースポーツ医療 (309)
仁科哲雄
2. サミット医療 (316)
浅井康文, 他
3. 大規模スポーツ大会における医療支援体制 (323)
森村尚登

PART 5 海外医療支援最前線

1. 自衛隊の海外医療支援 (327)
新地浩一
2. 国境なき医師団の海外医療援助活動 (331)
国境なき医師団日本
3. 日本赤十字社の海外医療支援 (334)
白子隆志

PART 6 災害医療の6つのトピックス

1. トリアージタグの電子化と次世代型災害救急医療情報システム (342)
小村隆史
2. Blast Injury (347)
布施 明
3. 広域災害でのドクターヘリの活動 (351)
原 義明, 他
4. 広域医療支援の課題 (357)
山田憲彦
5. 災害看護活動の現状 (362)
高野博子
6. 祭りと医療 (366)
中山伸一

Vol. 5 No. 3 (2008年9月)

特集

Snap Diagnosis を 生かせ!

アーティスティックな医師になる

企画/岩田充永/山中克郎

診断学総論 (419)
野口善令

Snap Diagnosis 症例集

- はじめに (424)
山中克郎
- 1. 夕食後に失神... (425)
71歳, 男性
- 2. 頭痛が治らない (425)
29歳, 女性
- 3. キツネにつままれた研修医... (426)
48歳, 女性
- 4. 大きく息が吸えない (426)
39歳, 女性
- 5. 旅行後の後頸部痛... (427)
80歳, 女性
- 6. 排尿時のブツブツ音... (428)
62歳, 男性
- 7. 転倒後, 左腕が... (429)
73歳, 男性
- 8. 突然, 息が苦しくなった (430)
24歳, 男性
- 9. 5年前からの眼瞼発赤... (431)
27歳, 女性
- 10. 下腹部痛そして発熱... (432)
21歳, 女性
- 11. 発熱, 発疹, 咳の女児... (433)
9歳, 女児
- 12. 夜間の胸痛... (434)
53歳, 男性
- 13. この指は... (435)
51歳, 男性
- 14. 色素沈着を伴う下腿浮腫... (435)
63歳, 男性
- 15. ベトナム旅行中の発熱... (436)
35歳, 男性
- 16. 胸がドキドキする... (437)
32歳, 男性
- 17. 食べ頃のオクラだね... (437)
43歳, 男性
- 18. 膝関節痛と発熱... (438)
81歳, 男性
- 19. 座ると息苦しい... (439)
86歳, 女性
- 20. 左足が壊死... (439)
82歳, 女性

21. ぐったりした男児... (440)
2カ月, 男児
22. 突然の胸部不快感... (441)
60歳, 男性
23. 頸部後屈で痛みが増悪... (442)
68歳, 男性
24. 自宅で失神... (443)
87歳, 女性
25. 来院後数時間後にショック... (444)
55歳, 男性
26. 初診外来で意識消失... (445)
44歳, 男性
27. 顔にブツブツ... (446)
65歳, 男性
28. 時間単位で症状は悪化... (447)
51歳, 男性
29. 抗菌薬内服後も続く発熱... (448)
33歳, 女性
30. 40℃台の発熱と紅斑... (449)
46歳, 女性
31. 発熱と点状出血... (479)
72歳, 女性
32. 1週間前から後頭部痛... (480)
46歳, 男性
33. 発熱と移動する頸部痛... (481)
51歳, 女性
34. 深夜の左側腹部痛... (482)
66歳, 男性
35. 熱傷後の下痢, 嘔吐... (483)
67歳, 男性
36. 下痢と下血... (484)
80歳, 男性
37. 転倒し顔面を打撲... (485)
65歳, 女性
38. 柔道で頭から落下... (485)
52歳, 男性
39. 半年前から倦怠感あり... (486)
56歳, 男性
40. 発熱が続き傾眠傾向... (487)
69歳, 男性
41. 嘔気・嘔吐, そして徐脈... (488)
84歳, 男性
42. 1週間前から発熱... (489)
58歳, 男性
43. しびれが増悪... (490)
46歳, 女性
44. 1カ月前から体の痛み... (490)
82歳, 女性
45. 突然の激しい腹痛... (491)
49歳, 男性
46. 唾液も飲み込めない... (492)
31歳, 男性
47. 頭痛, 眼瞼下垂, 複視... (493)
76歳, 女性
48. 全身倦怠感が続く... (494)
59歳, 女性
49. 突然の呼吸困難... (495)
33歳, 男性
50. 昨夜からの右内股痛... (495)
86歳, 女性
51. 深呼吸で痛みが増強... (496)
22歳, 女性
52. 緑色の尿... (497)
71歳, 男性
53. 陰囊が腫れて痛い... (498)
53歳, 男性
54. 服に引火... (499)
76歳, 男性
55. 増悪する右下腿痛... (500)
23歳, 男性
56. 皮膚が黒くなった... (501)
92歳, 女性
57. 足が腫れてきた, 呼吸も苦しい... (502)
48歳, 男性
58. シャワーを浴びると体が痛い... (503)
34歳, 女性
59. 居眠りをして交通事故... (504)
50歳, 男性
60. 4日前から妄想あり... (504)
21歳, 女性
61. 明け方, 妻に暴力... (505)
80歳, 男性
62. 体が痛くて起き上がれない... (505)
28歳, 男性
63. 下肢が伸ばせない... (506)
82歳, 男性
64. 下肢関節痛, そして熱... (507)
29歳, 男性
65. 悪寒戦慄が続いている... (508)
77歳, 男性
66. 昏睡状態で発見... (509)
70歳, 男性
67. 2カ月前からの発熱... (510)
48歳, 女性
- まとめ/「忙しいERにおける診断思考」を考える (549)
岩田充永

特集

ERでの急性腹症

Killer disease, Common disease, 専門医とのコラボレーション

企画/太田 凡/林 寛之

Editorial 太田 凡 (609)

1. 腹痛を訴える Killer disease (610)
太田 凡
2. 腹痛に対する病歴聴取
—病歴聴取は腹痛診断の最短コース (615)
井 清司
3. 腹痛に対する身体診察
—いつも離島診療所にいるつもりで (624)
奥本克己
4. 急性腹症の検査の組み立て方
—これぞ、ER 医の腕の見せどころ! (628)
高橋栄治
5. 急性腹症に対する画像診断
—Killer disease の超音波検査 (637)
宮武 諭, 他
6. 超音波以外の画像診断
—正確な早期画像診断が予後を左右する! (644)
船曳知弘
7. 急性胃腸炎
—救急外来で必ず出会う下痢に強くなるために (656)
吉野俊平
8. 便秘 (663)
北村 大, 他
9. 虫垂炎 (670)
又野秀行
10. 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃アニサキス症
—その心窩部痛, 内視鏡でなければ診断できませんか? (675)
後藤庸子
11. 腸閉塞 (685)
片田正一
12. 急性膵炎
—another name: Abdominal Burn—初期輸液との戦い (688)
井上 望, 他
13. 胆嚢炎, 胆管炎 (698)
上山裕二
14. 骨盤腹膜炎, 尿管結石, 精巣捻転
—帰宅? 専門医に相談? 夜中に迷わないために (704)
安 炳文
15. 小児の腹痛のピットフォール
—五感を働かせて, まず病変部位を探しましょう (714)
田中 亮
16. 腹痛と紛らわしい疾患
—腹腔外に原因のある“腹痛” (720)
谷口洋貴

17. 痛み止めの正しい使い方

—適切なタイミングで, 適切な選択を (724)
日比野仕功

18. NG チューブ (経鼻胃管) 挿入の正しいお作法

—患者さんの苦痛を知ろう! (728)
鹿島 健

19. 急性腹症の初期治療

—病態に応じた全身管理に強くなろう (734)
森下由香

20. 入院が必要だと考えるが診断が確定しない場合の対応は? (740)

佐土原道人

21. これぐらいなら帰れそうだと思うけど…

—診断が確定しないまま帰宅可能とも考えられるが, 腹痛が残る場合の対応 (748)
林 寛之

特集

BrainAttack 時代の脳卒中の ER

t-PA 時代の初期診療における ER 医の役割を確立する

企画/橋本洋一郎/本多英喜

Editorial 橋本洋一郎 (37)

A 脳卒中診療の「今」

1. 脳卒中専門医ってなんだ? (38)
井 清司
2. 脳卒中患者を担当する診療科はどこか? 搬送先をどこにすべきか? (44)
本多英喜
3. 脳卒中専門医が常時対応できない医療機関で救急医ができることは? (52)
本多英喜

B How to Practice for Stroke

1. Snap diagnosis (60)
平野照之
2. 脳卒中を疑ったら (64)
高橋 毅
3. 脳卒中のクリティカルパス (69)
米原敏郎
4. ER でどこまで検査するの? (76)
和田邦泰
5. くも膜下出血の ER での初期治療 (83)
西 徹
6. 脳出血の ER での初期治療 (87)
西 徹
7. 脳梗塞の ER での初期治療 (90)
寺崎修司

- 8. 脳梗塞急性期の外科的治療ってあるの？ (95)
坂井信幸
- 9. 神経内科医から救急医への要望 (99)
伊藤康幸, 他
- 10. 脳神経外科医から救急医への要望 (106)
長谷川秀, 他
- 11. リハビリテーション専門医からの救急医への要望 (111)
井上 勲, 他

C 初期評価と初期治療

- 1. ER でどこまでやるの？ (115)
日比野壮功, 他
- 2. 初期治療医としての救急医の役割は？ (123)
赤坂威史
- 3. 意識障害の評価と GCS を使いこなすには？ (127)
有嶋拓郎
- 4. ER で評価する必要がある高次脳機能障害とは？
1) 言語障害 (133)
稲富雄一郎
- 5. ER で評価する必要がある高次脳機能障害とは？
2) 記憶障害, 失行, 失認 (139)
稲富雄一郎
- 6. NIHSS (National Institutes of Health Stroke Scale) (145)
齊藤正樹
- 7. 神経内科医へコンサルトすべき神経症候は？ (148)
中原圭一, 他
- 8. 忘れてはいけない若年者の脳卒中は？ (153)
橋本洋一郎, 他
- 9. 一過性脳虚血発作はどうするの？ (160)
原 靖幸

D 脳卒中患者のプレホスピタルケア

- 1. 救急隊員に必要な神経学的所見のみかた (166)
渡邊雅男, 他
- 2. ER で情報収集に役立つ現場からの情報とは？ (174)
長谷川泰弘
- 3. 救急搬送患者でみられるピットフォール (179)
瀬戸雅美, 他
- 4. 精神障害を呈する脳卒中患者がいる!? (185)
田北智裕

E 脳卒中患者のリハビリテーション, 在宅医療

- 1. 脳血管障害急性期に早期離床を推奨する理由 (190)
橋本洋一郎, 他
- 2. 脳血管障害回復期・維持期の治療と社会復帰への道筋 (197)
渡邊 進

- 3. 脳卒中に関する市民・患者啓発 (202)
中山博文, 他

Vol. 6 No. 2 (2009年6月)

特集 「Acute on Chronic」を極める

企画／谷口洋貴／箕輪良行

Editorial 谷口洋貴 (245)

A 成人慢性疾患の急性増悪

- 1. 「Acute on Chronic」を診る!!
ER には、いわゆる“地味な主訴”の患者さんが多いが、その中に「爆弾」が潜んでいる！ (246)
谷口洋貴
- 2. 病診連携における ER 医の心得 5 カ条
顔の見える病診連携を構築するために (250)
金井伸行
- 3. 慢性疾患の急性増悪時の緊急対応と緊急処置
日々のありふれた疾患に多く触れることが、救急診療の真の実力に繋がる (256)
安田冬彦

B 緊急度の高い急性増悪や急性疾患の合併

- 1. 心疾患患者の急性増悪：非代償性うっ血性心不全、急性冠症候群
何よりも病歴が重要です (262)
山本和彦, 他
- 2. 高血圧患者の急性増悪：高血圧緊急症
この高血圧、今すぐに下げるべき!? (269)
福山香詠, 他
- 3. 心疾患患者の不整脈の発生
心不全例の不整脈の治療は心機能良好例の治療と異なる (275)
高橋伸基
- 4. 末梢動脈疾患 (PAD) の急性増悪
急性動脈閉塞症に進展していないか？ 5P を検索し、TASC 重症度分類を行う (280)
福岡正平
- 5. 呼吸不全, COPD, 気管支喘息など呼吸器疾患
急性増悪における原因疾患の鑑別に有用な所見を使いこなそう (285)
宮下 淳
- 6. 肝疾患：食道静脈瘤破裂・肝細胞癌破裂 (291)
西澤 徹
- 7. 消化性潰瘍, 胃食道逆流症 (GERD)
吐血だったら、まずはバイタルサインを評価し、バイタルサインを安定させる (296)
安池純士

8. **糖尿病や内分泌疾患：シックデイ、低血糖発作、高血糖緊急症、他**
ありふれた病気に潜む落とし穴 (301)
井上佳菜
9. **腎不全者患の意識障害**
鑑別診断の重要性 (307)
原田幸児
10. **小児アトピー性皮膚炎患者における急性疾患の合併：アナフィラキシー**
乳幼児のアトピー性皮膚炎では食物アレルギーによるアナフィラキシーを合併することがある！ (311)
大田和美
11. **乳児・小児気管支喘息の急性増悪**
喘息発作は感染症で誘発されていることが多い！ (316)
大田和美
12. **リウマチ・膠原病患者における Emergency**
ER ドクターとリウマチ性疾患 (321)
大岩 寛
13. **基礎疾患のある患者の敗血症**
初期治療が肝腎 (326)
土井朝子
14. **ER のトホホ**
(1) 「オオカミ少年症候群」に気をつけろ！ (331)
村井 隆
14. **ER のトホホ**
(2) 認知症のある 82 歳女性 (335)
安池純士

C 比較的緊急度の高くない急性増悪や急性疾患の合併

1. **炎症性腸疾患 (IBD) の急性増悪**
胃腸症状を繰り返す患者がきたら、炎症性腸疾患も考える (338)
安池純士
2. **肝硬変の合併症**
腹水、特発性細菌性腹膜炎 (SBP)、肝性昏睡からこむらえりまで (344)
村井 隆
3. **脳梗塞患者の急性増悪・急性合併症**
脳梗塞後患者さんの再来 → 脳梗塞再来?? (350)
宇佐美清英
4. **ALS 患者の急性増悪・急性の合併症**
診断は容易でも対応が困難なことがある (355)
徳元一樹
5. **運動器疾患**
運動器疾患の急性増悪は人工関節と脊椎関連 (359)
元津康彦
6. **慢性アルコール中毒患者の急変**
“アル中”を科学する (363)
上田剛士
7. **医原性疾患・薬剤性疾患による急変**
クスリは逆から読むとリスク (369)
上田剛士
8. **精神科、心療内科かかりつけ患者の急変**
パニック発作 (373)
川口晶子

9. **在宅重症心身障害児の急性増悪**
両親、介護者の訴えに耳を傾けよ (380)
西原正人、他

D 慢性疾患患者の急性増悪時における病病連携

1. **在宅患者の急性増悪と急性の合併症**
ささいな変化に対して速やかに対応するために (385)
草場鉄周
2. **在宅患者の急性増悪と急性の合併症**
紹介状なしで救急搬送されてきたら (390)
戸城仁一
3. **ドクターカーによる“逆搬送”**
断らない救急体制の切り札 (395)
安田冬彦
4. **ターミナル患者の急性増悪**
ターミナル患者も症状は改善する (400)
川上 明
5. **ドクターカーを活用した病病連携**
(1) 金井病院と洛和会音羽病院の連携事例の紹介 (404)
金井伸行
5. **ドクターカーを活用した病病連携**
(2) 姉妹病院・洛和会丸太町病院の例 (408)
谷口洋貴

Vol. 6 No. 3 (2009年9月)

特集

ER と研修医教育の濃厚な関係

まるごと 1 冊, 沖縄県立中部病院

企画/遠藤和郎/林 寛之

Editorial 遠藤和郎 (423)

I. どのようにして中部病院が生まれたのか

研修制度の生い立ち (424)

真栄城優夫

北米型 ER への歩み (428)

宮城良充

命のリレー (431)

平安山英盛

II. 救急医療の充実に向けて

みんなで支える ER (434)

雨田立憲

難しいケースへの対応

—なんくるないさ ER (442)

多鹿昌幸

突発事例への対応

—様々な医療への窓口としての ER (448)

山口 裕

外傷診療に大切なこと

- 外傷が診れる一般外科として (545)
- 村上隆啓

地方研修病院（沖縄県立中部病院）における産婦人科研修 (459)

橋口幹夫

救急医が診る小児疾患

- みんなで支える救急医療・プライマリ・ケア (465)
- 高良剛口ベルト

救急センター（ER）における研修医のかかわり (470)

内藤 祥

Ⅲ. 研修医教育

研修医を即戦力とするために (475)

豊里尚己

ER からの帰宅患者をどうフォローするか (481)

尾原晴雄

侵襲的な手技に関するライセンス制について (484)

本村和久

救急室研修を充実させるために

- 「安全に危険を冒す」(488)
- 小野雄一郎

失敗・反省を通じ、学ぶ救急医療

- 研修医必見連絡帳を通じて (493)
- 未田善彦

実録・研修医ライフ in 沖縄県立中部病院

- ローテーション中の初期研修医編 (498)
- 下高原淳一

ER ローテーション中の研修医の 1 日

- 救急専攻医編 (502)
- 大久保雅史

Ⅳ. 離島（美ら島）・地域支援

ある離島医師のモノローグ (506)

田仲 斉

離島における救急医療 (510)

垂野香苗

離島における救急医療

- 離島診療所から：島の医者は独り？ (514)
- 藤原昌平

地域の救急病院との連携について

- 救急医療を断らない沖縄県中部地区 (519)
- 杉本龍史

病診連携で地域を網羅する

- クリニックと救急室の双方向性連携 (523)
- 砂川博司

Ⅴ. チームで支える救急医療

救急室看護師の役割

- 研修医がいてこそその ER (530)
- 長田民子

検査科はどのように ER を支えている (533)

大田英也

ER と研修医と薬局の係わり (536)

田場英治, 他

放射線科はどのように ER を支えている (541)

佐久川哲

メディカルコントロールとの協力体制 (544)

金城俊昭

Ⅵ. 中部病院ならではの救急疾患対応

中部病院救命救急センターにおける精神科診療 (547)

西依 康

グラム染色と血液培養を徹底させる (551)

嶋崎鉄兵

溺水

- プレホスピタルケアと ER の連携が大切 (555)
- 玉城 仁

海洋危険生物による刺・咬傷とは？その対処法とは？ (559)

佐藤浩信

ハブ咬傷

- 血清使用を躊躇してはいけない (565)
- 国重千佳

レプトスピラ症

- 疑うことが肝心 (570)
- 豊川貴生

糞線虫症

- 「播種」を見逃すな (574)
- 椎木創一

妊婦の外傷にどう対処するか (578)

金城国仁

小児虐待 (581)

小濱守安

Ⅶ. 卒業生だからいえる一言

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 井 清司 (432) | 仲本昌一 (452) | 山城清二 (468) |
| 奥村 徹 (500) | 加藤博之 (504) | 西垂水和隆 (528) |
| 中村陽子 (586) | | |

Vol. 6 No. 4 (2009年12月)

特集 ひらめき診断術 『キーワードを探せ』 —痛み 編

企画／山中克郎

Editorial 山中克郎

A 総論

病歴を重視した診断美学 (656)

鈴木 純

B 胸痛

鈴木 純

1. 症例問題 (659)
2. キーワードからひらめく疾患
—初期研修医レベル (671)
3. キーワードからひらめく疾患
—後期研修医レベル (685)

*トリビア~な疾患解説
胸痛編 ①pericardial catch 症候群 (Texidor's twinge
Texidor のうずき) (674)
②Cervical angina (677)

C 腹痛

山中克郎 北 啓一朗

1. 症例問題 (694)
2. キーワードからひらめく疾患
—初期研修医レベル (701)
3. キーワードからひらめく疾患
—後期研修医レベル (717)

*トリビア~な疾患解説
腹痛編 ①ミュンヒハウゼン症候群 (700)
②柿胃石 (704)
③C1 インヒビター欠損症 (709)
④シガテラ中毒 (720)
⑤IgG4 関連疾患 (727)

D 頭痛

伊藤裕司

1. 症例問題 (731)
2. キーワードからひらめく疾患
—初期研修医レベル (740)
3. キーワードからひらめく疾患
—後期研修医レベル (757)

*トリビア~な疾患解説
頭痛編 ①Barré-Liéou syndrome (バレー・リュウ症候群)
(745)
②Mollaret meningitis (モラレー髄膜炎) (754)
③Chinese Restaurant Syndrome (中華料理店症候群) (763)

E 頸部痛

佐藤泰吾

1. 症例問題 (775)
2. キーワードからひらめく疾患
—初期研修医レベル (782)
3. キーワードからひらめく疾患
—後期研修医レベル (794)

*トリビア~な疾患解説
頸部痛編 ①Diffuse idiopathic skeletal hyperostosis : DISH
(779)
②再発性多発軟骨炎 (803)

Vol. 7 No. 1 (2010年3月)

特集

ER physician の臨床力を鍛える！

—どこで学ぶ？ 何から学ぶ？—

企画／堀 進悟／鈴木 昌

Editorial 堀 進悟 (65)

A 座談会：大学病院の役割 —市中病院との連携 (66)

鈴木 昌 芳賀佳之 宮武 諭 伊藤壮一

B ER から学ぶ教訓

- 1) 救命救急センターにおける ER 型救急診療の特徴
—川崎市立川崎病院 救命救急センター 救急科の挑戦 (74)
伊藤壮一
- 2) 二次救急医療機関における ER 型救急医療の特徴 (81)
芳賀佳之, 他
- 3) 心電図モニターの活用 (87)
中村岩男
- 4) 急性腹症の腹部 CT 読影
—CT は検査のひとつ, 総合的に判断を (93)
船曳知弘
- 5) 頭痛患者の頭部 CT 読影
—頭部 CT 診断の限界を知ろう (100)
稲樹文司
- 6) 胸痛患者の胸部 CT 読影 (108)
本多正徳
- 7) 輪状甲状靭帯穿刺と切開
—外科的気道確保法の選択 (114)
佐藤幸男
- 8) カルテ記載の方法と電子カルテ対策 (117)
宮武 諭
- 9) 感染予防の知識
—院内で最も感染リスクの高い場所, ER (124)
宮木 大
- 10) 医療コミュニケーション
—ノイズの「予防」と「治療」 (131)
杉本なおみ
- 11) 心エコーの活用 (138)
城下晃子

特集

ER という荒野を歩く ために ハイリスクエマージェンシーと医 療安全

企画／廣瀬保夫／岩田充永

Editorial

廣瀬保夫 (151)

座談会

救急外来のリスクマネジメント (152)

廣瀬保夫／浅井精一／児玉安司／前田 泉

I ハイリスクな病態を知っておこう

1) 心血管系のハイリスク

帰すべきか、帰さざるべきか、それが問題だ (164)
田村有人

2) 神経系のハイリスク

頭痛はつらいよ (174)
佐藤信宏

3) 腹部のハイリスク

知っていて欲しい病態、疾患 (178)
杉村美華子

4) 外傷のハイリスク

ERにおける外傷患者の初期診療において (184)
大貫隆広, 他

5) 骨・軟部組織の地雷

あなたは避けられる? (191)
渡瀬剛人

6) Airway Management

大切なのは挿管することではなく酸素化をよくすること (200)
牧 愛子

7) 高齢者に伴うハイリスク (205)

岩田充永

8) 妊婦に伴うハイリスク：妊娠高血圧腎症

浮腫を甘くみるべからず、血管透過性の亢進には気をつけよう (210)
里見裕之, 他

9) 小児に伴うハイリスク：呼吸障害

軽症やありふれた疾患に隠れた1%を拾い上げる (217)
伊藤誠治

10) NBC テロに伴うハイリスク

安全管理は、他機関との連携にあり (222)
奥村 徹

II こんな時どうする!? ERにおけるトラブル例

1) 救急外来でのトラブル対策 (227)

森下由香

2) 日常臨床において遭遇するさまざまなトラブル例 (234)

又野秀行

3) Drug seekers, Repeaters, Frequent flyers, Doctor shoppers, ED groupies…薬物依存患者の見分け方 (240)

白井知佐子

4) さまざまなトラブルにうまく対応するためのTips (244)

上山裕二

5) 要注意! 診療妨害患者が本当の器質的疾患を有することあり (249)

藤田尚宏

III 対策

1) 医療安全への取り組み：M&Mカンファレンス (255)

長谷川耕平

2) 病院における急性期医療の質改善の取り組み：RRT (260)

志賀 隆

3) ERのコンサルジュ：トリアージナース (265)

多鹿昌幸, 他

4) トリアージ教育

最前線の研修医とナースを守るために (271)
水 大介, 他

特集2 ひらめき診断術 『キーワードを探せ』 痛み編【続編】

企画／山中克郎

F 腰痛、背部痛

井口光孝

1. 症例問題 (304)

2. キーワードからひらめく疾患 —初期研修医レベル (310)

3. キーワードからひらめく疾患 —後期研修医レベル (320)

*トリビア～な疾患解説
腰痛、背部痛編

①大動脈瘤切迫破裂 (impending rupture of aortic aneurysm) (318)

②Waddell 徴候 (333)

特集

ERでの創処置 これ 一冊!

企画／北原 浩／太田 凡

Editorial 北原 浩 (349)

1) 創処置を始める前に

—全身から局所へ・創傷処置総論 (350)
内田祐司

- 2) 局所麻酔と鎮静処置 (356)
田口瑞希
- 3) 創の評価と記録
重要組織損傷の評価と記録の重要性 (362)
梅澤耕学
- 4) 縫合前処置
正しい洗浄法と術野確保など (368)
太田孝志
- 5) デブリードマンの適応と方法 (372)
田口瑞希
- 6) 縫合法 その1: 使用機材について 角針と丸針,
縫合糸, 持針器, 鑷子, 二双鉤 (374)
隅田靖之
- 7) 縫合法 その2: 単結節, 垂直・水平マットレス,
二層縫合など各種縫合法の解説と使い分け (380)
谷川徹也
- 8) 縫合法 その3: 複雑な形状をした創の縫合一弁
状創, 挫滅創, 表皮剥離 (385)
宮森大輔
- 9) 特殊な創閉鎖法
一傷は針糸だけで閉じるもの? (389)
山上 浩
- 10) 汚染創への対応
一Delayed primary closure は本当に必要か (395)
若井慎二郎
- 11) 特別な部位の縫合
一専門医への依頼をする前に (399)
若井慎二郎
- 12) 特殊な創と専門医への紹介 (406)
村尾良治
- 13) ドレーン留置
一軟部組織損傷・病変に対するドレナージについて (413)
村尾良治
- 14) 縫合後の処置とさまざまな被覆材の使用法
一いろいろあるけど, どれを使ったらいいんでしょう?
(416)
市川元啓
- 15) 処置後の薬物投与 (421)
阿南英明
- 16) 処置後の指導と合併症
一きれいな癒痕にするためのフォローも重要 (425)
小池智之
- 17) 熱傷の局所処置
一ER での対応ポイントは単純化と創意工夫 (429)
本多英喜
- 18) 創傷処置にまつわる ER でのトラブル
一人の振り見て我が振り直せ! トラブル症例集 (438)
北原 浩
- 19) 創傷治癒のメカニズム
一古くて新しい基本理論を理解する (444)
日比野壮功, 他

特集2 ひらめき診断術 『キーワードを探せ』 痛み編【続編】

企画/山中克郎

G 関節痛

安藤大樹

1. 症例問題 (474)
2. キーワードからひらめく疾患
一初期研修医レベル (482)
3. キーワードからひらめく疾患
一後期研修医レベル (495)

*トリビア~な疾患解説
関節痛編

- ①回旋腱版損傷 (478)
- ②DeQuervain 腱鞘炎 (486)
- ③Moeton 神経腫 (488)
- ④糖尿病関連関節痛 (490)
- ⑤転子部滑膜炎 (494) ⑥足底筋膜炎 (501)
- ⑦paraneoplastic syndrome (503)

Vol. 7 No. 4 (2010年12月)

特集 ERのプロセス&プラ クティス Not How to, But What, if

企画/本多英喜/片山 繁

Editorial 本多英喜 (511)

- 1) 「3週間前から動けない高齢者」
一この事前情報から何を考え, 準備をするか (512)
本多英喜
- 2) 高齢者の腹痛患者はやっぱり難しい
一情報を上手に得よう, そしてリスク評価が大切です
(521)
山口恭一
- 3) 食欲低下の高齢者を診てください
一ERにもやってくるぞ, 食欲低下 (528)
西尾博至
- 4) 寝たきり患者の情報収集
一本人への問診がまったくできない状況でどうすべきか?
(534)
三宅章公, 他
- 5) 挿入物のトラブル
一尿道バルーン, 胃ろうについて (541)
船越 樹
- 6) 介護が必要な高齢者の受診
一帰宅時の対応, 周囲との連携 (549)
日比野壮功

- 7) めまいを主訴とする救急車受け入れ要請に対応する
—「めまい」と「めまい感」の診察の進め方 (557)
中森知毅
- 8) 頭痛診療
—“+ α ”の情報に注目する (564)
山本基佳, 他
- 9) 腰背部痛で救急搬送される患者への対応
—軽症か, 重症か, それが問題だ (571)
芳賀佳之
- 10) ERにおいて女性の腹痛で連想されること
—常に妊娠を想定して (578)
西浦香保里
- 11) 失神で搬送された患者
—考えること, 判断すべきこと (583)
中村京太
- 12) アルコール依存症の患者
—診断のコツと繰り返す受診への対応について (591)
大淵 尚
- 13) 呼んでも返事がなく, 動かない青年
—心因性意識障害への対応 (597)
許 勝栄, 他
- 14) 急性アルコール中毒患者が搬送される
—その背景に隠されたものは? (606)
上山裕二
- 15) 意味不明な言動で暴れている患者 (613)
伊藤敏孝
- 16) 耳に関する診療依頼 (616)
佐々木 徹
- 17) 顔面の外傷患者の受診依頼があったらどうしますか? (624)
川妻由和
- 18) 小児患者の急性腹痛
—虫垂炎の診断は難しい (629)
毛利 健
- 19) ショック状態の小児を見分け, 初期対応を行う (636)
宮本朋幸
- 20) 児童虐待症例の診断と対処法 (641)
宮本朋幸
- 21) 陰部, 外性器への鈍的外傷の対応
—主に男性を中心として (646)
片山 繁
- 22) 担当診療科はどこ?
—野外活動のトラブル・陸上編: 合併症をきたしやすい小外傷 (651)
片山 繁
- 23) 担当診療科はどこ?
—野外活動のトラブル・海洋生物編 (656)
川妻由和

Vol. 8 No. 1 (2011年3月)

特集 飯塚型総合診療のすすめ

企画/井村 洋/尾田琢也/山田 徹

Editorial 井村 洋 (17)

I. 飯塚病院総合診療科クロニクル

井村 洋 (18)

II. 総合診療 Problem Solving Case Files

- 1) 頸部痛と両肩痛で来院した不明熱 (22)
山田 徹
- 2) 好酸球上昇の不明熱 (29)
清田雅智
- 3) 間質性肺炎+皮疹=膠原病?? (37)
江本 賢
- 4) 発熱と嘔気・嘔吐 (43)
尾田琢也
- 5) 意識障害「犯人はお前かっ!!」 (49)
楡田 剛
- 6) 「むむう…。これって肺炎…?」 (56)
櫻井 翼
- 7) 乳酸アシドーシスで来院した AKA (62)
安藤 諭
- 8) 下腹部痛で来院した急性腹症 (69)
塩塚美歌
- 9) パーキンソン病と思われていた CPM の症例 (74)
迎久美子
- 10) 左側胸部痛で発症した ALL (80)
徳丸佳世
- 11) 癌転移と間違えられた VitD 欠乏 (85)
清田雅智
- 12) 原因不明の初発低血糖?? (92)
小田浩之
- 13) 覚醒剤中毒で右心系 IE (94)
林 史恵
- 14) 成人のバルボウイルス感染 (96)
安藤 諭
- 15) 発熱・後頸部痛で来院した Crowned dens syndrome (98)
竹内元規
- 16) 健康食品の過量摂取による薬剤性下痢 (100)
尾田琢也

III. 総合診療医のつくり方

- 1) 教育的ケースカンファレンスのすすめ
飯塚病院総合診療科における朝カンファレンスの紹介 (102)
吉野俊平

- 2) 屋根瓦式チーム制, こんな風にしては? 責任と役割をはっきりさせ, より機能的なチームを目指す (110)
吉野俊平
- 3) 初期研修医のための T & A シミュレーション 動きながら, 考えるトレーニング (115)
小田浩之
- 4) 内科系集中治療チームのあゆみ ICU/HCU は病院総合医の新たなフィールドになるか? (120)
尾田琢也
- 5) 包括的なプライマリ・ケアをいち早く体験できるシステム 家庭医療プログラム実践の場の構築 (126)
大杉泰弘

IV. 家庭医療の現場から

- 1) 小規模病院でのプライマリ・ケア, クリニックでの在宅診療 (128)
吉田 伸
- 2) 苑の嘱託医として (135)
大杉泰弘

V. 総合診療医の横断的機能

- 1) 緩和医療と総合診療医 (141)
檜田 剛
- 2) 小児救急初療コース (Triage & Action) について (146)
茂木恒俊
- 3) プライマリ・ケアローテーション (152)
大杉泰弘

VI. 鼎談 病院総合医のあり方

総合診療のポテンシャルを発揮するための5つのキーワード (157)
井村 洋・山田 徹・尾田琢也

Vol. 8 No. 2 (2011年6月)

特集

ER で遭遇する一般市中感染症の診断と初期対応 [前編]

企画/大野博司/岩田充永

Editorial 大野博司 (165)

●総論

- 1) ER での成人の発熱へのアプローチ (166)
岩田啓芳 大野博司
- 2) ER での小児の発熱へのアプローチ (172)
上山伸也 齋藤昭彦

- 3) ER での小児の発熱に必要な検査とピットフォー (178)
上山伸也 齋藤昭彦
- 4) ER での感染症診療に必要な検査 一特に迅速検査, 画像検査, 血液培養など各種培養一 (183)
中村 造 松永直久
- 5) ER での Gram 染色と抗菌薬選択方法の基本概念 (190)
藤田浩二 細川直登
- ① ER から引き継ぐ診療科は? 一各施設の現状紹介一 (201)
大野博司, 矢部正浩, 成田 雅, 藤田浩二, 清田雅智, 岸田直樹
- ② ER で働くために知っておくべき情報 一自施設の菌の感受性を把握していますか?一 (214)
井口光孝, 他

Vol. 8 No. 3 (2011年9月)

特集

ER で遭遇する一般市中感染症の診断と初期対応 [後編]

企画/大野博司/岩田充永

●各論

- 6) ER での発熱, 意識障害・けいれんへのアプローチ 一髄膜脳炎の診断・初期治療 (334)
松坂 俊 岸田直樹
- 7) ER での発熱, 咽頭痛へのアプローチ 一急性咽頭炎・副鼻腔炎の診断・初期治療 (340)
江本 賢 清田雅智
- 8) ER での発熱, 呼吸苦の初期対応 一市中肺炎のマネジメント (349)
近藤 猛 大野博司
- 9) ER での発熱, 心雑音へのアプローチ 一感染性心内膜炎の診断・初期治療 (358)
竹内元規 清田雅智
- 10) ER での発熱, 下痢へのアプローチ 一急性下痢症の診断・初期治療 (365)
大野博司
- 11) ER での発熱, 腹痛へのアプローチ 一胆嚢炎・胆管炎の診断・初期治療 (373)
富田友実 大野博司
- 12) ER での発熱, 腰痛へのアプローチ 一腎盂腎炎の診断・初期治療 (381)
坂本和雄 清田雅智
- 13) ER での若い女性の発熱, 下腹部痛へのアプローチ 一頸管炎・PID の診断・初期治療 (387)
菅長麗依 大路 剛

- 14) ERでの発熱，発疹へのアプローチ
—蜂窩織炎，帯状疱疹の診断・初期治療（396）
吉田 暁 矢部正浩
- 15) ERでの発熱，関節痛へのアプローチ
—化膿性関節炎の診断・初期治療（401）
野木真将 城 嵩晶
- 16) ERでの発熱，動物咬傷へのアプローチ
—動物咬傷の診断・初期治療（408）
石田時也 成田 雅
- 17) ERでの多発外傷および小外傷への抗菌薬予防投与・治療的投与の考え方（417）
佐藤裕樹 成田 雅
- 18) ERでの敗血症 Sepsis の初期診断，病態に応じた抗菌薬投与の考え方（426）
岩切正樹 大野博司
- 19) ERでの短時間で致命的となりうる感染症の診断・初期治療
—ビブリオ菌・髄膜炎菌・劇症型溶血性レンサ球菌感染症など（432）
尾田琢也 清田雅智
- 20) ERでの結核
—どう疑って，どう治療するか？（440）
石金正裕 古川恵一
- 21) ERでのβラクタム抗菌薬にアレルギーのある患者への抗菌薬投与の考え方（447）
久保健児 大曲貴夫
- 22) ERでの下部消化管穿孔，虫垂炎
—外科疾患への抗菌薬選択の考え方（456）
宮前伸啓 大野博司
- 23) ERでの妊婦への抗菌薬処方への考え方（465）
柏木秀行 清田雅智
- 24) 救急外来に常駐させておきたい抗菌薬
—使い方を覚えておこう（471）
永井友基 岸田直樹
- ③これってインフルエンザ？！
—インフルエンザにみえる他疾患（477）
松尾裕央 大路 剛
- ④こんな患者さんが発熱で来院した場合の対応はどうする？
—免疫不全/HIV/ステロイド服用/糖尿病/透析患者/肝硬変（481）
藤谷好弘 森澤雄司
- ⑤急性 HIV 感染症を疑うとき
—ERで行うべき検査は？（487）
内田大介 大路 剛
- ⑥「海外旅行後に熱が出ました」に驚かずに ER で対応するためのアプローチ（491）
大場雄一郎 大路 剛

Vol. 8 No. 4 (2011年12月)

特集1 君は放射線にどう立ち向かえるか

企画／寺澤秀一／奥村 徹

Editorial 奥村 徹

- 1) いまさら聞けない放射線の基礎知識（532）
小淵岳恒
- 2) いまさら聞けない放射線関係の単位（536）
高田千恵
- 3) いまさら聞けない線量計の使い方（541）
高田千恵
- 4) いまさら聞けない个人防护，養生のやり方（547）
佐藤 将，他
- 5) 緊急被ばく医療における薬剤の使い方（554）
立崎英夫
- 6) 地域における緊急被ばく医療体制の整備（559）
郡山一明，他
- 7) 緊急被ばく医療における女性の役割（564）
富永隆子
- 8) R テロ対応をテーマとした国民保護訓練（569）
奥村 徹

特集2 ERの御法度 ～少し自信がついてきた人のために～

企画／寺澤秀一／太田 凡

- 1) 慣れによる思い込みが診断を遅らせた（576）
市川光太郎
- 2) 事前情報にとらわれすぎることなかれ（583）
山上 浩
- 3) 診断ミスにつながるエラーをどう回避するか（586）
許 勝栄
- 4) 病歴聴取で必ず押さえるべき情報（590）
尾関貴哉，他
- 5) 日常診療の決まりきった検査や投薬での失敗（596）
芳賀佳之
- 6) 安易に検査に走ってしまった症例（600）
宮武 諭
- 7) 重篤な疾患を想起する重要性（605）
神宮司成弘，他
- 8) 他科へのコンサルトを安易にパターン化してしまった失敗（610）
井 清司
- 9) 診療スピードに自信がついたための失敗（614）
佐藤泰吾
- 10) ひょっとしてステロイドが足りていないのではないか（619）
佐藤朝之

- 11) 脊髄損傷にまつわる落とし穴 (623)
松岡 拓, 他

Vol. 9 No. 1 (2012年3月)

特集1 一歩上をいく外傷診療

企画/今 明秀

Editorial 今 明秀 (3)

- 1) 外傷ショックの戦い方
—大量出血にどう対応するか? (4)
今 明秀
- 2) 外傷意識障害で考えること
—原因病態をどう鑑別するか? (11)
加藤正哉
- 3) 外傷性低酸素の鑑別
—何を考えるか? (19)
紙尾 均
- 4) プリベンタブルデス
—外傷診療をどう評価するか? (26)
今 明秀
- 5) 劇的救命
—救命率を上げるには? (34)
今 明秀

特集2 ERの御法度 ～少し自信がついてきた人のために～ (2)

企画/寺澤秀一/太田 凡

- 1) 緊急度・重症度が過小評価されがちな一次救急症例 (50)
森下由香
- 2) 圧迫骨折によく似た怖い骨折 (56)
伊藤生
- 3) 思考停止に陥らないために (61)
小浦友行, 他
- 4) 胸痛にまつわる落とし穴 (65)
谷口洋貴
- 5) “触れ込み”による“思い込み”に要注意 (69)
不動寺純明
- 6) 来院時心肺停止からの救急室での死亡にまつわる
こと (73)
佐土原道人
- 7) やっぱり身体所見が大事 (78)
本村和久
- 8) 小児の嘔吐は恐ろしい (83)
上山伸也
- 9) ハイリスクな患者を同定せよ (86)
佐藤信宏
- 10) 救急隊, コ・メディカル, 他院との連携における
落とし穴 (90)
小山泰明

- 11) まれな疾患を忘れるべからず (95)
松下成孝

- 12) CT検査で異常所見を見逃す状況とは (99)
和田智貴, 他

- 番外編 診断書を書くときの心構え (104)
徳永日呂伸

Vol. 9 No. 2 (2012年6月)

特集 どう診る? 何を診る? ERの神経疾患

企画/高木 誠/荒川千晶

Editorial 荒川千晶 (153)

●症候学

- 1) 「CTでは異常はないので緊張型頭痛と診断しました」
頭痛の診断アプローチが間違っていないか? (154)
星野晴彦
- 2) 「CTでは異常はないので末梢性めまいだと思います」
誰かが陥るめまい診療の落とし穴とは? (162)
大木宏一
- 3) 「しびれの原因は脳か, 脊髄か, 末梢神経のどれかだと思のですが…」
あまり活用されることのないデルマトームや反射の重要性
とは? (169)
足立智英
- 4) 「意識障害の原因としてAIUEO TIPSを考えると…」
稀な原因を考えるより, 遭遇頻度の高い疾患の鑑別方法を
身につける. (178)
荒川千晶
- 5) 「歩行障害で来院されましたが, よくわからないのでMRIを撮影します」
歩行障害の原因は麻痺? しびれ? 痛み? 原因を探るアプ
プローチとは? (188)
温井孝昌
- 6) 「認知機能が急に悪くなったというのですが… たぶんただの認知症ですね」
認知症でなくても認知機能が低下したようにみえる疾患と
は? (196)
関根真悠

●各論

- 7) 「30分前発症の右片麻痺の症例が来ます!」
最適な脳卒中の超急性期診療を行うための工夫とは?
(203)
荒川千晶

- 8) 「この脳梗塞の原因はアテローム血栓性…いや心原性かも…」
脳梗塞の病型診断を救急の現場で速やかに行うコツとは？ (213)
星野晴彦
- 9) 「5分程度の右片麻痺があったようです。もう治っているみたいなので大丈夫そうですね」
TIAを甘くみていませんか？ TIAは脳の緊急疾患です！ (220)
足立智英
- 10) 「2日前からの右不全麻痺みたいです。脳梗塞で決まりですかね」
ERにも忘れた頃にやってくる神経疾患1…多発性硬化症 (228)
後藤 淳
- 11) 「3日前から両下肢がしびれているそうです。腰が悪いのでしょうか！」
ERにも忘れた頃にやってくる神経疾患2…ギランバレー症候群 (235)
大木宏一
- 12) 「昨日から頭痛があって、少しボーッとしているようです」
ERにも忘れた頃にやってくる神経疾患3…脳炎、細菌性髄膜炎 (241)
関根真悠
- 13) 「だいぶ前から歩行は悪かったようで、先ほど転倒して来院しました」
ERにも忘れた頃にやってくる神経疾患4…パーキンソン病/パーキンソン症候群 (250)
温井孝昌
- 14) 「朝から顔面が麻痺しているそうです。やっぱり脳卒中ですかね？」
ERにも忘れた頃にやってくる神経疾患5…顔面神経麻痺 (259)
荒川千晶

Vol. 9 No. 3 (2012年9月)

特集

ERで役立つ全次型救急のオリジナルなプロトコール

企画/中野 実

Editorial 中野 実 (299)

- 1) アナフィラキシーショックの対応
—アドレナリンは持続静注がおすすめ (300)
藤塚健次
- 2) ヘビ咬傷の対応
—診療開始は「ヘビに咬まれた」の電話から (305)
高橋栄治
- 3) 一酸化炭素中毒の対応
—酸素投与が鍵 (314)
雨宮 優

- 4) CPAの対応 その1—脳低体温療法
—病院前からER, ICUへ、そして社会復帰退院まで (318)
中村光伸
- 5) CPAの対応 その2—PCPS
—心肺“脳”蘇生をめざして (325)
町田浩志

コラム① 緊急開胸術

—スピーディーに！シンプルに！ (331)
町田浩志

- 6) 小児の軽症頭部外傷の対応
—頭部CTは必要か？ (334)
小倉崇以
- 7) 急性呼吸不全の対応—APRV
—肺保護戦略はERから始まっている (340)
岡森 慧
- 8) 感染症への対応
—グラム染色との付き合い方 (345)
原澤朋史
- 9) 困難気道の対応
—事前準備と想定訓練が患者を救う (352)
加藤 剛, 他
- 10) 重症外傷の対応 その1—大量出血に対する治療戦略
—大量輸血療法の判断はTBSSで！ (360)
小倉崇以
- 11) 重症外傷の対応 その2—骨盤骨折の治療戦略
—TAEか創外固定か、それが問題だ (368)
町田浩志
- 12) 重症外傷の対応 その3—重症肝損傷の治療戦略
—ER初期治療から集中治療へ (372)
藤塚健次
- 13) 重症熱傷の対応
—非熱傷専門施設のERでの初療 (376)
鈴木裕之, 他
- 14) 覚せい剤中毒の対応
—警察へ通報すべきか、否か？ (384)
仲村佳彦
- 15) ERでの死亡症例への対応
—トラブルに巻き込まれないために (388)
畠山淳司
- 16) 自殺企図患者への対応
—救急科と精神科の協力体制 (395)
宮崎 大, 他

コラム② 救急・集中治療 勉強会

—研修医育成の現場から (400)
小倉崇以

特集

予後から学ぶ救急対応

—ERと専門科のコラボレーション

企画/井 清司

Editorial 井 清司 (439)

1) 心不全患者

—ERを受診する心不全患者の超急性期管理と長期予後 (440)

松川将三, 他

2) 不整脈の管理

—心房細動の管理とICDを入れられた患者について (448)

吉村拓巳, 他

3) 心臓手術後の患者

—心臓大血管手術後の術別患者管理の要点 (455)

鈴木龍介

4) 慢性呼吸不全—特に COPD 患者の予後

—禁煙の重要性 (464)

溝部孝則

5) 肝硬変

—食道静脈瘤の出血だけではなく肝硬変患者の管理 (471)

竹熊与志

6) 腎不全患者

—透析だけでは解決困難なさまざまな問題 (480)

上木原宗一

7) 糖尿病

—急性増悪や合併症への対応と管理上の注意点 (489)

福島英生, 他

8) がん患者さんの救急受診

—がん患者さんも緊急でERを受診する (497)

吉田 稔

9) 小児の気管支喘息と熱性けいれん

—長期的予後と管理について (506)

窪田祥吾, 他

10) 脳梗塞とTIAの予後と再発予防

—脳梗塞予防の戦略 (513)

寺崎修司

11) ERから入院した脳出血症例の予後

—脳卒中地域連携バスを用いてわかった熊本地域の脳出血症例の長期予後 (521)

松元 淳, 他

12) 産婦人科疾患

—ERを受診する産婦人科疾患の概要 (529)

荒金 太, 他

13) 尿管結石患者の予後

—特に結石性腎盂腎炎の症例について (536)

稲留彰人, 他

14) 熱傷患者の生命予後と機能的予後・美容的予後

—長期管理上の注意点 (543)

藤澤明彦, 他

特集

レジデント技術全書

検査と処置, これだけ, ここまで

企画/横林賢一/市場稔久

第1部

Editorial 横林賢一 (3)

これだけはおさえておきたい!! —ERでの基本検査と処置

1) 1分で読む心電図の読み方 (4)

村本容崇

2) 1分で読む胸部X線の読み方 (11)

飛野和則

3) 1分で読む血液ガス分析の読み方 (29)

近藤英史, 他

4) CBC, 生化, 凝固 血液検査ルーチンの内容とその意味 (35)

市場稔久

5) ERで必要な腹部エコーの見方とポイント (46)

岸川暢介

6) ERで必要な輸液・輸血の知識と方法 (55)

太田浩平

7) 研修医にとっての心肺蘇生 (ACLS) (65)

宇根一暢

第2部

Editorial 市場稔久 (75)

ここまでできれば素敵です!! —ERでの検査と処置

1) ERで出会うことの多いCT/MRI読影のコツ (76)

石山光富, 他

2) ERで出会うことの多い単純X線写真読影のコツ (95)

石山光富, 他

3) ERで役立つ心エコーの見方とポイント (104)

村本容崇

4) ERでの人工呼吸器装着と初期設定の考え方 (112)

霧野広介, 他

5) ERで必要な昇圧剤・降圧剤の知識と使い方 (123)

市場稔久

6) ERにおけるグラム染色・血液培養の意義と方法 (131)

谷口智宏

7) ERにおける皮膚縫合と帰宅可能な熱傷への対応 (138)

横林ひとみ

8) ERにおける骨折・捻挫・脱臼の初期評価と固定法 (149)

池尻好聰

9) ERで重要な穿刺手技を攻略しよう (167)

瀬良 誠

10) 実践編 (183)

市場稔久, 他

ERの患者学

患者がわかればERができる!

企画/林 寛之

Editorial 林 寛之 (209)

1) Preventable death

—正しい手順で防ぎうる死を絶対出さない (210)
今 明秀

2) Must not miss!

—Atypical presentation に気をつけろ (226)
野口善令

3) Defensive medicine

—不適切診療とされないために (243)
本多英喜

4) Difficult patient

—患者が満足できてこそ一人前 (257)
森田浩史

5) Medicolegal issue in ED

—患者・医療者の安全・安心のために (274)
加藤博之

6) 患者の権利とインフォームド・コンセント

—患者の守られるべき利益とは (290)
岩田充永

7) 患者特性とERのポイント (1)

—子どもと保護者、妊婦、高齢者、思春期、外国人への対応 (298)
許 勝栄, 他

8) 患者特性とERのポイント (2)

—精神疾患をもつ患者への対応 (321)
谷崎真輔

9) ER Triage

—ERのトリアージ成功の秘訣 (334)
森下由香

2) 脳卒中

—診療所での初期対応と地域連携 (378)
安藤高志

3) 肺炎

—グラム染色を効果的に用いた診断法 (386)
齋藤 彩

4) COPD (慢性閉塞性肺疾患) 急性増悪

—治療とマネジメントのポイント (394)
八藤英典

5) 急性腹症 (1)

—急性虫垂炎から考えるアプローチ (402)
中川貴史

6) 急性腹症 (2)

—虚血性腸炎から考えるアプローチ (411)
平野嘉信

7) 小児科救急 (1)

—気管支喘息発作・クループ・急性喉頭蓋炎への対応 (421)
宮地純一郎

8) 小児科救急 (2)

—アナフィラキシーへの対応 (430)
佐藤弘太郎

9) 産科・婦人科救急 (1)

—緊急病態の診療とコンサルト (437)
岡田唯男

10) 産科・婦人科救急 (2)

—アフターピルの使用法と患者説明 (450)
中村琢弥

11) 整形外科救急

—腰痛・膝痛・肩痛へのアプローチ (455)
松下 明

12) 眼科救急

—診療所での処置と紹介の判断 (465)
草場鉄周

13) 耳鼻科救急 (1)

—めまい・耳痛・難聴へのアプローチ (473)
河合良介, 他

14) 耳鼻科救急 (2)

—鼻出血・鼻腔内異物・急性鼻副鼻腔炎へのアプローチ (485)
山田康介

15) 熱傷

—診療所で行う開放性湿潤療法 (492)
森 洋平

16) 外傷

—JPTECに基づいた適切な対応とは (502)
中村琢弥

17) 動物咬傷 (ヒトを含む哺乳類咬傷)

—合併症を防ぐ処置と薬物治療のポイント (508)
紺谷 真, 他

18) 救急としての看取りの側面

—在宅での癌患者のケア (517)
松井善典

診療所ER

—救急のgood job症例と患者ケア

企画/谷口洋貴

Editorial 谷口洋貴 (367)

対談

「診療所ERと病院ER

—それぞれの魅力と役割」 (360)
太田 凡 谷口洋貴

特集論文

1) 心臓救急疾患

—病気と思いと背景を考慮した対応を考える (368)
福井慶太郎

特集 ERの整形外科

—機能再建のための診察と処置

企画／松井健太郎／二村謙太郎

Editorial 松井健太郎 (535)

鼎談

「救命された人が、 再び社会復帰できるように

—患者の運命の分岐点はERにあり

箕輪良行, 松井健太郎, 二村謙太郎 (528)

特集論文

- 1) 開放骨折を制するための初期治療
—感染を防ぐ治療戦略とは (536)
普久原朝海
- 2) 「明日再診でいいですか?」「今でしょ!」
—成人編 (546)
竹内直英
- 3) 「明日再診でいいですか?」「今でしょ!」
—小児編 (556)
依光正則
- 4) やってはいけない初期治療
—よくみる上肢外傷編 (568)
善家雄吉
- 5) やってはいけない初期治療
—よくみる下肢外傷編 (580)
坂なつみ, 他
- 6) 血管損傷を合併した四肢外傷
—脈が触れれば安心か? (592)
福田 誠, 他
- 7) コンパートメント症候群を見逃さない
—判断できるかできないか, それが問題だ! (602)
乾 貴博, 他
- 8) ダメージコントロール手術を決断する時
—Damage Control Orthopaedics (DCO) とは何か? (610)
上田泰久
- 9) 局所のダメージコントロール
—Local Damage Control (LDC) とは何か? (623)
北田真平, 他
- 10) 高齢者外傷は難しい
—本当は怖い高齢者の骨盤骨折・脊椎骨折 (632)
吉田昌弘
- 11) 骨盤輪骨折を制するための初期治療
—蘇生の先を見据えた治療を! (639)
二村謙太郎

特集 外傷診療 ALL IN ONE

—実践力を身に付けよう

企画／今 明秀

Editorial 今 明秀 (3)

1. ERからORにつなげ

- A 気道「先ずAより始めよ」(4)
吉岡勇氣
 - B 胸部「胸部外傷はすしあんじょうでORにつなげ!」(10)
北川喜己
 - C ショック「急いで察知, 急いで止血!」(16)
山田康雄
 - C 腹部「開腹部キャッチアップするまで手を離すな」(23)
今 明秀, 他
 - C 骨盤「急性期から機能再建を考えよ」(29)
岸本文
 - D 脊椎「脊髄損傷治療の新展開」(33)
井口浩一
 - D 頭部「穿通性脳損傷」(39)
大庭正敏
 - E 体温管理と緊急輸血「緊急輸血で低体温・凝固障害を防ぐ」(44)
木村健介, 他
 - F 看護師調整と家族対応「外傷初期治療における看護調整 & 家族対応」(50)
平尾明美
- Ischemia 虚血(救肢手術)「救肢はチャレンジ手術ではありません!」(53)
土田芳彦
- Infection 感染(敗血症, 抗菌薬)「準備から退院後までが外傷診療です!!」(59)
濱館香葉, 他

2. ERで画像を読影

- FAST「いいFAST」(64)
河野慶一, 他
- 胸部X線「いつ撮って, いつ撮らないのか」(67)
沖山 翔, 他
- 骨盤X線「不安定型骨盤骨折を確実に見抜く」(73)
吉岡隆文, 他
- 頭部CT「外傷性の脳血管病変に注意」(78)
大庭正敏
- 外傷パンスキャン「時間を意識した撮影, 読影と戦術の立て方」(85)
昆 祐理, 他

3. ER手技を確実に

輪状甲状靭帯切開「気道確保の最後の砦」(96)

吉岡勇気

胸腔ドレナージ「B(呼吸)の異常を解除せよ」(99)

野田頭達也, 他

骨髄内輸液「いつやるの?今でしょ~!」(103)

光銭大裕

心嚢開窓術「脳骨裏の心嚢に鉄で穴を空ける」(108)

今 明秀

大動脈遮断バルーン (Intra-aortic balloon occlusion: IABO)「重症外傷診療に欠かせない強力な武器を使いこなせ!」(111)

丸橋孝昭, 他

4. 止血術を急げ

多発外傷ダメージコントロール「第一段階は迅速・簡略化手術」(117)

今 明秀

外傷 IVR「時間を意識した治療戦略のために」(124)

昆 祐理, 他

骨盤創外固定「慣れば簡単, でも適応は慎重に!」(134)

岸本正文

大動脈ステントグラフト「大動脈損傷への新しい迅速低侵襲な治療法」(138)

栗本義彦

5. 予測救命率を知っているか

外傷スコア (TRISS 法)「外傷の重症度を客観的に評価する」(142)

吉村有矢, 他

Preventable Trauma Death「外傷診療の質の向上を目指して」(147)

吉村有矢, 他

劇的救命「救命の可能性が少ない超重症外傷を救命する」(151)

吉村有矢, 他

6. 現場に ER を持ち込め

ドクターヘリ「外傷診療は現場から始まる!その①」(157)

小林誠人

ドクターカー「外傷診療は現場から始まる!その②」(165)

林 靖之

サンダーバード作戦「同一地域・施設でのラピッドドクターカー・ドクターヘリの連携」(172)

軽米寿之, 他

災害現場出動「多数傷病者発生!現場医療対応はどうする?」(175)

小林誠人

国際災害出動「国際緊急援助での外傷診療」(182)

富岡譲二

コラム 外傷診療 mnemonics①~⑪ (15, 49, 58, 66, 83, 102, 107, 123, 133, 146, 164)
有嶋拓郎

Vol. 11 No. 2 (2014年6月)

特集 ER 的 小児救急 —見抜く力, 確かな根拠

企画/井上信明

Editorial 井上信明 (193)

I 内因系

1) 発熱した児への初期対応

—“見た目”を大事にして重症患者を見逃さない (194)
大西志麻

2) 喘鳴, 呼吸苦を認める小児患者への対応

—致死的な疾患は除外できましたか? (201)
伊藤友弥

3) 意識障害を認める小児患者の評価と対応

—小児も大人も基本は同じ, 小児に特徴的な鑑別疾患を想起しよう (207)
竹井寛和

4) 泣きやまない乳児への対応

—どうして泣いているの? (214)
神谷侑画

5) 腹痛を訴える小児患者への対応

—危険な原因をトリアージする (219)
久我修二

6) けいれんしている小児患者への初期対応

—けいれんも ABC が大事 (226)
鉄原健一

7) 小児救急で診る皮疹

—隠れたまれな致死性の疾患を見逃さない (233)
朱田博聖

8) 活気不良の乳児を診たら

—SAMPL “E” 聴取を中心に (241)
佐々木隆司

9) 血便, 下血を認める小児患者への対応

—怖い血便? 怖くない血便? (247)
岩田賢太郎

II 外因系

1) 異物総論 (鼻, 耳, 誤飲)

—子どもは何でも穴に入れたがる (254)
後藤匠啓

2) 軽症頭部外傷

—頭部 CT は撮るべき? 撮らないべき? (260)
伊藤太一

3) 顔面外傷

—顔面軟部組織損傷と顔面骨折の診療 (264)
玉田一敬

- 4) **小児の歯牙損傷と歯性感染症**
—ER でどう対応するか (271)
小方清和
- 5) **子どもの四肢骨折**
—骨折の特性とその診断手順 (279)
江口佳孝
- 6) **子どもの純粋的腹部外傷**
—全身 CT より ABC (286)
吉元和彦
- 7) **子どもの熱傷**
—専門科につなげるために小児 ER でできること (292)
関谷恭介
- 8) **薬物誤用**
—うちの子どもが薬を飲んだかも…どうする? (300)
佐藤信宏

III 治療

- 1) **外来で使用する抗菌薬について**
—その適応と適正使用 (305)
磯貝美穂子, 他
- 2) **外来で使用する風邪薬について**
—Evidence Based 小児風邪診療 (311)
高橋卓人
- 3) **ホームケアについて**
—病児を家族と看る究極のプライマリケア (316)
岸田みずえ

IV 検査

- 1) **ER で使用できる迅速検査 (POCT) の適応**
—その検査は本当に必要? (323)
安田 幹
- 2) **こんなところにエコーは使えます**
—救急超音波検査の ABC (330)
森 崇晃
- 3) **単純 X 線検査**
—適切なオーダーと解釈のために (342)
杉中見和
- 4) **子どものバイタルサイン測定**
—5breaths-10 beats 法の紹介 (347)
神園淳司

V 手技

- 1) **子どもの鎮痛・鎮静について**
—適切な鎮痛・鎮静は救急医の腕の見せ所 (355)
萩原佑亮
- 2) **用手的気道確保, エアウェイ (経口, 経鼻), 静脈路確保, 骨髄路確保 (360)**
時田裕介
- 3) **縫合処置**
—小児の創傷へのアプローチ (368)
野村 理
- 4) **整復 (肘内障, 鼠径ヘルニア嵌頓, 包茎嵌頓)**
—整復できるかできないかはあなた次第 (376)
光銭大裕

VI その他

虐待を疑うとき

- 疑えなければ見逃してしまう予後不良の疾患 (380)
池山由紀

Vol. 11 No. 3 (2014年9月)

特集

実践で使える ER の マイナー

—診察法の基本と common & critical disease の診かた

企画/山上 浩

Editorial 山上 浩 (393)

1. 眼科

- 1) **眼科 総論**
—解剖から診察法まで (394)
北原 理
- 2) **眼痛を訴えない視力障害**
—「痛くないけど見えない」は、とにかく疑うことから始めよう (400)
能美なな実
- 3) **眼痛を訴える非外傷性疾患**
—眼だけをみてはいけません (405)
大淵 尚
- 4) **眼外傷**
—より良い視機能温存のために (412)
船越 拓
- 5) **眼異物**
—な、泣いてないよ、眼にゴミが入っただけ! (419)
嘉村洋志

2. 耳鼻咽喉科

- 1) **耳鼻咽喉科 総論**
—耳鼻科的診察法 (423)
川口剛史
- 2) **鼻出血**
—患者さんも自分も大慌て! とならないために (427)
上段あずさ
- 3) **異物 (耳, 鼻, 咽頭)**
—〇〇が取れなくなっちゃいました… (433)
安 炳文
- 4) **特異性顔面神経麻痺/Ramsay Hunt 症候群**
—顔をじっくり見ながら会話(問診)しましょう…常に頭蓋内病変の確認を! (439)
青木信也
- 5) **咽頭炎**
—明日から使える! EBM に基づいた診断秘技伝授 (444)
増井伸高

6) 耳・鼻の外傷

—先生、耳や鼻を強打した患者がERにきました (451)
萩原佑亮

7) めまい

—病歴を中心に考える (456)
後藤匡啓

3. 皮膚科

1) 皮膚科 総論

—ERで診る皮疹の基本 (463)
梅澤耕学

2) 壊死性筋膜炎／フルニエ壊疽

—疑うことが第一歩 (466)
森田浩史

3) SJS／TEN(Stevens-Johnson 症候群／中毒性表皮壊死症)

—疑って診察し、皮膚科医につなげるまではERの仕事だ (474)
松田知倫

4) 急性蕁麻疹、血管性浮腫／アナフィラキシー

—それってただの蕁麻疹?? (480)
薬師寺泰匡

5) 動物咬傷

—あなたの初療が感染を防ぐ! (487)
佐藤信宏

6) 熱傷

—定期的な外来フォローは必要不可欠! (492)
山本真嗣

4. 整形外科

1) 整形外科 総論

—基本だけ知っていますか? (497)
隅田靖之

2) 頻度の高い骨折

—これだけおさえておきたい! (505)
渡瀬剛人

3) 頻度の高い脱臼

—診断の落とし穴と治療の注意点 (513)
村尾良治

4) 関節炎

—化膿性関節炎を見逃さない (522)
岡田信長

5) 指尖部の外傷

—後ろ“指”を指される前に… (529)
高橋 仁

5. その他

1) 尿管結石

—エコーで見るのは大動脈から!! (535)
山上 浩

2) 精巣捻転

—下腹部痛に騙されるな! (542)
内田祐司

3) 尿閉

—原因は本当に前立腺肥大でいいの? (547)
廣瀬 薫

4) 陰部外傷

—こんなときどうしますか? (553)
堂本佳典

5) 顎関節脱臼／歯牙損傷／口腔内出血の止血法

—口は災いの元、災いの祓い方教えます (560)
加藤陽一

Vol. 11 No. 4 (2014年12月)

特集

Toxidrome

—薬毒物を疑った時のアプローチ

企画／箕輪良行

Editorial 箕輪良行 (571)

A. イントロダクション—Toxidromを理解する

1) ありふれた器質的疾患でないと思われる場合 (572)

上山裕二

2) Toxic Syndrome の考え方 (582)

宮武 諭

B. System 1—Snap Diagnosis Visual Diagnosis 直観的なアプローチ

3) 高齢者に特徴的な薬毒性症状 (587)

日比野将也, 他

4) よくみるポリファーマシー (595)

森川 暢, 他

5) 小児患者に多い薬物副作用 (601)

安 炳文

6) 在宅ケアで想定される薬毒物エピソード (607)

今永光彦

7) ERのポリファーマシーでおさえておくべきこと (612)

阿部智一

C. System 2—演繹的論理的 鑑別診断アプローチ

8) 救急現場・院外状況から考える (619)

田中敏春

9) 既往歴から考える—坊主憎けりや袈裟まで憎い (626)

大谷 寛, 他

10) 服薬履歴から考える (632)

新里盛朗, 他

11) 消化管症状で薬毒物を疑うポイント (641)

野々上 智

12) 身体所見から考える—問診で内服歴を聞くのと同時に身体所見から総合的に考えよう (649)

小山泰明

13) バイタルサインから考える (657)

入江總五郎

14) MUSからのアプローチ (664)

石井道人

D. ーいざという時のためのクリニカルパール

15) 急性中毒で役立つ記憶術 (671)

上條吉人

16) 中毒薬毒物の症状と検査 (676)

神應知道

**17) 有効性のEBMがある中毒対処法
ー意外と少ない!? 中毒対処法のエビデンス (685)**

宮道亮輔

**18) 日本中毒情報センター ー中毒110番って、
いつ電話するの? (691)**

関 義元